

願法寺 御真影

長野県飯綱町古町

建暦2年（1212年）11月27日の夕刻常陸国大門の里を布教中の親鸞聖人が大雪に難渋し、日野左衛門の館にたどり、一宿を求められるが主、左衛門がこれに応ぜず、門前の石を枕に野宿される。夜半、左衛門の霊夢によって改心、館に招いて教えを受け、浄土に回心し、入西房道円と法名を賜る。

また館を寺と成し沈石寺と号した。

聖人との別れの時、自ら御首ばかりを刻まれ御詠歌と共に下された。

元安元年（1299年）10月二代目如信上人、当山に参詣し、尊体を補刻賜り枕石の御真影と称された。

その後、枕石寺より分寺し、寺号を山号にし、枕石山願法寺と名乗る。

文久元年（1861年）9月二代目如信上人のお刻み分け御真影は故あって本山宝物殿に納められ、代わりとして本山宝庫伝来の御真影を下付され、聖人73歳のご自作と伝承されている。

昭和57年飯綱町第一号の文化財に認定されている。



願法寺御真影